

現役生と同窓会員による

信州大学マンドリンクラブ

創立 60 周年記念リベンジ演奏会



第1回から第61回までの定期演奏会ポスター/パンフレット



2024年8月24日(土) 13:30 開演

ホクト文化ホール中ホール(長野市)



現役生ホームページ

主催

信州大学マンドリンクラブ

信州大学マンドリンクラブ同窓会



同窓会ホームページ

本日は「信州大学マンドリンクラブ創立60周年記念リベンジ演奏会」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

本演奏会は2022年に企画しました「信州大学マンドリンクラブ創立60周年記念演奏会」が新型コロナの為に中止となってしまった為、今回新たにリベンジ演奏会として開催することになりました。この新型コロナは未だに終息とはいきませんが、このように皆様方にお越しいただくことができ、大変嬉しく思っております。

ところで、当マンドリンクラブはマンドリンとギターを中心に、様々な楽器を使って合奏しているマンドリン合奏団です。このマンドリンとギターは共に古代ペルシャのバルバット（barbat）を祖先とし、それから派生したリュートがイタリアに入ってマンドリン、スペインに入ってギターになったとされています。

日本には19世紀半ばの黒船の来航と共にアメリカ人からギターが伝わり、マンドリンは19世紀後半にイギリス人から伝わったとされています。

その後、比留間賢八が海外実習生としてドイツに行った際にイタリア人からマンドリンとギターを学び、帰国後に本格的に日本国内に広めたとされています。それにより、明治末から大正時代にかけて、慶應義塾大学や明治大学のマンドリンクラブや武井守成をはじめとする社会人のマンドリンクラブが数多く創立され、第一次ブームとなりました。

その後、鈴木静一・中野二郎・服部正らの日本人作曲者が活躍し、1960年から1970年にかけて大学のマンドリンクラブも第二のブームを迎えました。

そのような中で信州大学でも1963年に誕生した文理学部のマンドリンクラブを中心に全学組織の信州大学マンドリンクラブが創立されました。

それから60余年、800名を超えるクラブ員が在籍し、それぞれがクラブ活動を通して、充実した楽しい学生時代を過ごすことができたことと思います。

創立当初から続けられてきた定期演奏会も今年で62回目となります。ここまで、途切れることなく続けられてきましたのも、クラブ員の努力はもとより、演奏会場にお越しいただいたお客様をはじめ、家族や友人、更にはパンフレットに広告を載せてくださった事業所の方々、演奏会場のスタッフの方々等多くの方々のご支援の賜物と感謝しております。今後も70回80回と継続していけますよう、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

信州大学マンドリンクラブ同窓会 実行委員長 金井正広

皆さん、こんにちは！

本年度の本部長を務める難波地曜と申します。この度は「信州大学マンドリンクラブ創立60周年記念リベンジ演奏会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスにより中止になっていた本演奏会を開催することができ、大変うれしく思います。

現在の信州大学マンドリンクラブは、毎年11月、12月に行われる定期演奏会に向けて日々活動しています。今まで私たちは、現役サークル員だけで演奏会を行ってきました。そのためOBの方々や他団体との合同演奏会の経験はありませんでしたが、今回の機会を通じて新たな刺激を受け、日々の練習に活かすことができます。今回の演奏会を通して、OBの方々とのつながりをつくることはとても大切なことなのだと感じたとともに、音楽は言葉を超えて心をつなぎ、感動を共有する素晴らしい手段であるということを再認識するよい機会となりました。会場にお越しの皆様の中に、私たちの音楽がほんの少しでも温かな思い出を残せれば幸いです。また、この場を通じて、私たちの活動や音楽に興味を持っていただければ、大変嬉しく思います。

最後になりますが、今日は私たちの演奏会にご参加いただき、心から感謝申し上げます。どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

信州大学マンドリンクラブ 現役本部長 難波地曜

駒ヶ岳



演奏曲紹介

第1部 同窓会ステージ

雨とコスモス

「荒城の月」を主題とする二つの

マンドリンのための変奏曲

雪「ロマンツァとボレロ」

交響的前奏曲

作曲者

武井 守成

服部 正

G.Lavitrano

Ugo Bottacchiari

編曲者

第2部 現役生ステージ

チェリー

Summer

津軽海峡・冬景色

マンドリン酒場の夜

願いの叶う本

信濃の国

草野 正宗

久石 譲

三木 たかし

湯浅 隆

丸本 大吾

小林 俊介

石原 咲優

松尾 英知

吉田 剛士

第3部 合同ステージ

信州大学学生歌

宵待草

浜辺の唄変奏曲

山峡

序曲「帰郷（ハイムライゼ）」

羽毛田 憲一

多 忠亮

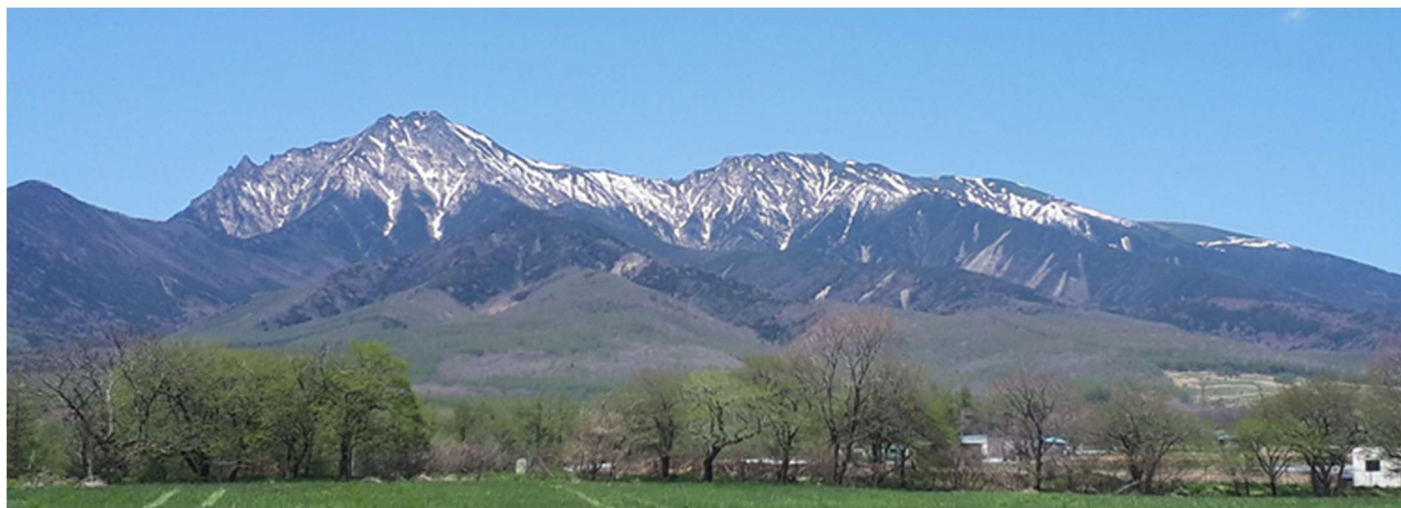
中野 二郎

川崎 貞利

Konrad Wölki

服部 正

八ヶ岳



曲目解説

第1部 同窓会ステージ

雨とコスモス

“庭に咲き残った1本のコスモスが、降る雨に花びら一つ動かさず空を仰いで清らかに立っていた。”この曲はマンドリン合奏曲ではあるがピアノが大変効果的に使われている。

雪「ロマンツァとボレロ」

この曲の序奏はイスラム旋律で始まり、次にスペインの喧騒を現わす激しいボレロ（セギディーリャス）のリズム、そして中間の緩徐楽部は雪を被ったシェラネバダ山脈の情景を現わしている。

第2部 現役生ステージ

チェリー

この曲は明るくキャッチーなメロディーが印象的です。聴く者を懐かしい感覚へと誘い、シンプルでありながら深みのあるサウンドが、陽気な雰囲気を楽しませてくれます。

津軽海峡・冬景色

天城越えと並んで石川さゆりさんの代表曲とも言えるこの曲は昨年の紅白歌合戦でも歌われました。時代を超えて愛されている名曲をマンドリンオーケストラでお楽しみください。

「荒城の月」を主題とする二つの マンドリンのための変奏曲

ラジオ体操第1の作曲者でもある服部正は、多くのマンドリン曲も作曲・編曲している。この曲は名前の通り二人のマンドリン奏者のために「荒城の月」をアレンジした変奏曲である。

交響的前奏曲

この曲は数あるマンドリン曲の中でも最高峰と謳われる曲で、他の曲ではあまり見られない“一つの美しい主題”が最後まで全体を貫くしっかりとした構造や重厚な和声の特徴である。

Summer

この曲は久石譲の独自の音楽表現が魅力で、美しい旋律が聴く者に季節の移り変わりを感じさせます。豊かな楽器の響きが夏の自然の美しさを描き出しています。

マンドリン酒場の夜

ポルトガルギターとマンドリンのユニットの曲をオーケストラ向けに編曲したもので、今にも踊り出しそうなビートが特徴的です。ぜひ酒場にいるような雰囲気をお楽しみください。

願いの叶う本

この曲は「誰かに貸すことで、貸した相手の願いの叶う本」がテーマとなっています。ゆったりと優しく美しい、そんな繊細な旋律をお楽しみください。

第3部 合同ステージ

信州大学学生歌

1959年に大学の学生部が学生歌の歌詞の募集を行い、翌年作曲の募集を行った。そして、入選したのが、当時学生であった宮坂敏夫が作詩、羽毛田憲一が作曲したこの曲である。

浜辺の唄変奏曲

作曲者の中野二郎はマンドリン曲の作曲・編曲の第一人者。この曲は単なる編曲ではなく、マンドリンとギターの特徴を生かした変奏曲である。

序曲「帰郷（ハイムライゼ）」

この曲は故郷を遠く離れて暮らす若者が、懐かしさのあまり、居ても立っても居られず、自分の郷里目指して足を急がせ、やっとの思いで辿り着くまでの様子を緩急使って巧みに描いている。

浅間山と菜の花畑



信濃の国

昔、山がちで広大な長野県は、同じ県でも文化が異なり、県民に統一感がありませんでした。だからこそ、県民みんなで同じ歌を歌おうということで生まれた曲です。

宵待草

この曲は恋多き詩人で画家でもあった竹久夢二の失恋の詩にバイオリニストの多忠亮が旋律を付けた。“待てど暮らせど来ぬ人を 宵待草のやるせなさ 今宵は月も出ぬさうな”

山峡

この曲は川崎貞利の代表曲で、文字通り両側に山の迫った狭い谷間を歩く旅人が目にした情景を描いている。マンドリン合奏を経験した人であれば一度は演奏したことのある名曲でもある。

ステージ・メンバー紹介（同窓会員）

指揮者	大原 秀樹 (S44)	井上 雄二 (S47)
コンサートマスター	高野 洋之 (S56)	
司会者	清水ますみ (賛助)	

1st Mandolin

- ◎ 高野 洋之 (S56)
- 伊東 義敏 (S41)
- 西脇 育子 (S45)
- 鹿野美智子 (S48)
- 岡村 彰夫 (S53)
- 薄井 康央 (S54)
- 廣田 翔平 (H21)
- 井村 一恵 (S49)

Mandola

- ◎ 佐々木和也 (S61)
- 土屋由美子 (S44)
- 鶴見 鍵二 (S40)
- 林 次信 (S41)
- 谷口 博光 (S42)
- 伊藤 雄二 (S45)
- 杉村 直英 (S45)
- 井上 雄二 (S47)

Guitar

- ◎ 水上 明 (S44)
- 日野 博明 (S43)
- 武内 正 (S41)
- 福永 眞敏 (S42)
- 上野 武男 (S44)
- 金井 正広 (S46)
- 早川 勉 (S47)
- 稲葉 京子 (S48)
- 中江 康之 (S56)
- 中村 誠 (S58)

2nd Mandolin

- ◎ 中村 美和 (S58)
- 近藤美代子 (S47)
- 林 典子 (S41)
- 渡辺 賢二 (S38)
- 久保田さち (S43)
- 盛岡 孝史 (S45)
- 新田すみ子 (S48)
- 富沢 伸子 (S48)
- 井原 広一 (S42)

Mandolon Cello

- ◎ 細野ひろみ (S46)
- 白井 真希 (H4)
- 伊東恵美子 (賛助会員)

Contra Bass

- ◎ 力石 恒雄 (S49)
- 市ノ瀬 茂 (S49)

Piano & Percussion

- 富沢 伸子 (S48)
- ◎ パートリーダー
- パートサブリーダー
- () 入学年

ステージ・メンバー紹介（現役生）

指揮者	松本 優莉（織4）
コンサートミストレス	杉山 碧（医4）
司会者	鈴木 桃香（経4）

1st Mandolin

- ◎ 杉山 碧（医4）
- 梶田 菜月（人3）
- 小林 俊介（織4）
- 寺井 蒼人（織2）

Mandola

- ◎ 印牧 真菜（人4）
- 菊池 優花（人3）
- 稲垣 柊汰（経4）
- 百瀬ことの（経3）
- 大木 稜弓（理2）

Guitar

- ◎ 加藤 涼（理4）
- 大河原世吏（人3）
- 松本 優莉（織4）
- 松本慎之介（織3）
- 岡田 夕芽（経2）

2nd Mandolin

- ◎ 草間あゆみ（医4）
- 加藤 和（教3）
- 茶谷 真衣（人4）
- 上條 友香（人4）
- 坂本 賢汰（工2）
- 児玉 幸奈（経2）

Mandolon Cello

- ◎ 友田 輪（理3）
- 田中 琴野（工2）
- 小柳れんげ（人2）
- 阪田優之助（工2）

Contra Bass

- ◎ 高橋 花歩（工4）
- 難波 地曜（理3）
- ◎ パートリーダー
- パートサブリーダー
- () 学部・学年

南アルプス



現役生の近況報告

信州大学マンドリンクラブは、今年の春、新たに 11 名の新生を迎え入れ、総勢 52 名で活動しています。年齢や学年に関係なく、すべての部員が親しく交流し、穏やかな雰囲気の中で共に音楽を楽しむことを大切にしています。新生も上級生も、音楽への情熱を共有しながら、互いに切磋琢磨し合っています。

毎週末には松本の公民館に集まり、11月に予定されている長野での定期演奏会と、12月の松本での定期演奏会に向けて練習を行っています。練習は、和気あいあいとした雰囲気の中にも、真剣さと熱意が感じられる充実した時間です。曲目の選定から演奏技術の向上まで、全員が協力し合い、より良い演奏を目指して努力しています。

さらに、春と夏には合宿を行い、個人の技術向上を図るだけでなく、部員同士の親睦を深めています。合宿は、集中した時間と環境の中で、互いの信頼関係を深めることができる場です。日常の練習とは異なり、合宿ではより長時間にわたって集中的に練習を行うことができるため、技術の向上が一層促進されます。また、練習の合間にはレクリエーション活動も取り入れ、部員同士の交流を深めています。合宿をはじめとする様々なイベントを行うことで、クラブ全体の結束力が一層強まります。

今回のリベンジ演奏会には、上級生 30 名が参加予定です。クラブの一員として培った技術と絆を存分に発揮し、聴衆の皆様へ感動をお届けできるよう努めてまいります。

私たちは、音楽を通じて楽しく、そして有意義な時間を過ごしています。私たちは、この素晴らしい環境の中で成長し続け、より高みを目指して活動していく所存です。部員一同、これからも精進し、より多くの方々に私たちの音楽をお届けできるよう、さらなる努力を続けていきます。

今年の春合宿での練習風景



同窓会 甲信越支部の紹介と近況報告

甲信越支部は山梨県、長野県、新潟県と北陸3県を含め、会員数は約300名です。その内、支部の演奏活動に参加しているメンバーは20名ほどで、それぞれの住所は長野市、松本市、上田市、佐久市、伊那市、甲府市等と広範囲にわたっています。メンバーの多くは仕事をリタイアした後に何十年振りかに楽器を手にして参加しており、平均年齢も70歳に近いのですが、マンドリン合奏に対する情熱だけは学生時代と変わっていません。支部の練習は毎月1回で、基本的には第2土曜日の午後に行なっており、練習会場は上田市西部公民館と松本市あがたの森文化会館とで交互に行なっています。

演奏会としましては、支部主催の演奏会の他、介護施設や温泉施設、地区のイベント等に出向き演奏会を行なっています。特に、武石温泉「うつくしの湯」ではここ数年毎年行なっています。また、信州大学関係では、繊維学部、人文学部、工学部等の同窓会のイベント等にも呼ばれて演奏会を行なってきました。その為、レパートリーも増え、50曲近くになりました。最近は「創立60周年記念リベンジ演奏会」用の曲の練習をメインとし、イベントが近付くとそれ用の曲も練習しております。

指揮者は10年間以上指揮をしてきた庄村靖弘氏に代わり、昨年からは井上雄二氏が指揮をしていますが、彼は現在も高校のマンドリンクラブの指導や指揮をしている為、高校生と高齢者のギャップにさぞかし戸惑っていることと思います。最後に、“今を楽しみたい”と想っている甲信越支部のOG・OBの方々、ご参加をお待ちしています。



2024年2月25日
“うつくしの湯”
にて

同窓会 東日本支部の紹介と近況報告

1. 東日本支部の地域とメンバー

当支部のカバー地域は関東・東北・北海道そして静岡西部（富士川以東）です。地域の同窓生は老若100人強ですが、広域なので支部活動に呼応するメンバーは現在首都圏を主に約30名（45～80才）です。その中で今も楽器を持って演奏しているのは約15名で、半数は各々の地元で楽団を主催または主導している実力者です。

2. 支部の活動

支部としての常設楽団は持っていませんので、月例練習や定期演奏会はありません。演奏に関しては、信州での同窓会や支部の催しに応じて支部でジョイント的に適時集まり10名前後で練習や小演奏会を持ってきました。ただ、元々マンドリン系が少なくギターが多数なので、ギター合奏もありです。また、楽器を離れたメンバーも新年会などの集会には参加して年代を超えた交流を深めます。集まりは交通網の関係から東京品川駅エリアが最適で、都心の会場確保困難から高輪台の“前同窓会長邸”を練習や一次会の場をお願いしているのが実態です⇒甘えですが必須！！ また、メンバーが活動する楽団は首都圏に7つで各々が定期演奏会を開催しており、互いに足を運び刺激を貰っています（東京2、千葉、神奈川2、茨城、静岡）

3. 現在の60周年リベンジ演奏会参加者と今後の取り組み

今回は8名が参加予定です。少人数ながら4名は各パートリーダーの重責を務めています。それは良いのですが、この数年で高齢の演奏引退者が増加して“パート欠け”から練習が困難化。今、支部では合奏メンバーの補強・再構築が最優先課題です。今回の8名を核に、若手定年世代（60～65才前後のOB）の再デビューや演奏引退者の復帰（75才前後—無理強い禁物）を啓蒙すべく支部幹事で作戦中です。



前会長邸での
サロンの練習風景

同窓会 西日本支部の紹介と近況報告

(1) 毎月第1土曜日は米原へ

西は姫路（兵庫県）から、東は岡崎（愛知県）から会員は米原（滋賀県）に集まります。会員は現在十六名で楽器が大好き、合奏が大好きな者たちの集まりです。米原市にある米原学びあいステーションの視聴覚室に毎月第1土曜日午後1時に集合し、調弦のあと合奏の練習が始まります。

(2) 緊張と喜びの交錯する合奏練習

会員が絶対の信頼を寄せる指揮者の大原さんの「ぼちぼち、始めませ」から練習が始まります。「フレーズを意識して」、「テンポを守って」、「ほかの楽器の音を聞いて」と次々に指示が出ます。大原さんから具体的な指示がなくてもその苦い表情から大原さんが演奏に満足してないことが伝わってくることもあります。そのような練習が続き、大原さんのほぼ指示どおりの演奏ができたとき、会員はこう思うのです。「本当に合奏は楽しいな。」

(3) 地元の人々に支えられての「こまくさ演奏会」

4月20日（土）に第2回の定期演奏会を開催しました。会場は第1回とおなじ米原学びあいステーション大ホール（収容人員500名）。「こまくさ演奏会」と名付けたのは、信州の山々に育つ高山植物にちなんだもので、可憐で力強い「こまくさ」のように皆さんに親しまれる演奏会でありたいとの願いが込められています。

米原学びあいステーションの職員の方々には開催にあたって大変なご支援をいただきました。そして演奏会当日には地域のマンドリン音楽愛好家を含め大勢の方々に来場していただき、成功裡に演奏会を終えることができました。

これからも今まで以上に地域の病院などからの演奏依頼にも誠実に応え、マンドリン音楽を楽しむとともに皆さんにも親しまれる活動を続けたいと思っています。



「第2回こまくさ演奏会」の
ステージ風景

（令和6年4月20日（土））

第1回合同練習会 キッセイ文化ホール、あがたの森文化会館（松本市）

2023年12月2日（土）松本市のキッセイ文化ホール、3日（日）あがたの森文化会館において現役生と同窓生の合同練習会を行いました。

キッセイ文化ホール リハーサル室



あがたの森文化会館



あがたの森文化会館 2-7教室



第2回合同練習会 あがたの森文化会館（松本市）

2024年5月18日（土）、19日（日）あがたの森文化会館において、現役生と同窓生の2回目の合同練習会を行いました。

あがたの森文化会館 正門



あがたの森文化会館 2-8教室



あがたの森文化会館 講堂



実行委員会、スタッフ・メンバー紹介

実行委員長	金井 正広	現役生本部長	難波 地曜
副委員長	早川 勉	現役生副本部長	松本 慎之介、大河原 世吏
演奏部門	責任者	市ノ瀬 茂	
	甲信越支部代表委員	市ノ瀬 茂、稲葉 京子	
	東日本支部代表委員	福永 真敏、高野 洋之	
	西日本支部代表委員	大原 秀樹、カ石 恒雄	
事務部門	責任者	水上 明	
	甲信越支部代表委員	西脇 育子、近藤 義盛、新田 すみ子	
	東日本支部代表委員	三戸 純、水上 明	
	西日本支部代表委員	伊藤 雄二、岡村 彰夫	
スタッフ	同窓生	北山 知恵子、工藤 京子、百瀬 都	
	現役生	元 法仁、小松 香凜	
	現役生	一ノ瀬 涼介、分部 義明	
	現役生	澤田 結芽、橘 百花、常光 悠乃、友野 桜	

戸隠 鏡池



北アルプス

